地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	兵庫県	事業実施主体	兵庫県、西脇市 多可町、神河町	地域再生計画名	兵庫県、西脇市、多可町、神河町「水・緑・人がともに生きるまちづくり計画」
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	兵庫県農林水産部林務課　峯陽治郎		

	指標		基準値	基準年度	中間目標値 年度	中間実績	最終目標値	基準年度	最終実績	事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標１	住宅地を通過する耐火原料採掘地関連の大型車両交通量	20台／日	H26	20台／日	H29	20台／日	0台/日	R3	0台/日	○	指標総数 12	達成数 8	町道の整備により大型車両が住宅地を通らず目的地へ通行できるようになり、最終目標値を達成できた。
		JR寺前駅周辺地域の商業地・住宅地の歩行者の通行危険箇所数	10箇所	H26	10箇所	H29	8箇所	0箇所	R3	0箇所	○		町道の整備により通行危険箇所が解消し、最終目標値を達成できた。
		国道４２７号豊部地内の人身事故件数	5件	H26	5件	H29	6件	0件	R3	0件	○		多可町道豊部３５号線の開通により、目標が達成できた。
		多可町道中野間光竜寺中池線、大家中の谷線及び糀屋中村町中央線の狭隘箇所数	3箇所	H26	1箇所	H29	1箇所	0箇所	R3	0箇所	○		多可町道大屋中の谷線の開通により、目標が達成できた。
		西脇市、多可町間の交流人口	87万人	H26	88万人	H29	82万人	90万人	R3	82万人	△		R3国勢調査の公表がR4.7月以降となるため、中間評価と同様にH27国勢調査の結果から実績とした。
	指標２	JR寺前駅周辺地域の住宅数	79軒	H26	79軒	H29	83軒	100軒	R3	93軒	△		町道の整備により道路交通状況が改善し住宅数は増えたが、町全域で人口が約1,400人減ったこともあり、最終目標値を達成できなかった。
		西脇市への観光入込客数	121万人	H26	124万人	H29	127万人	127万人	R3	90万人	△		コロナ渦で観光客が減少した。
		神河町への観光入込客数	43万人／年	H26	43万人/年	H29	70万人	60万人/年	R3	71万人	○		町道の整備により観光交流施設へのアクセス性が向上し、最終目標値を達成できた。
		滞在型市民農園（ブライベンオオヤ）の利用戸数	18/20戸	H26	18/20戸	H29	15/20戸	20/20戸	H33	20/20戸	○		多可町道大屋中の谷線の開通により、目標が達成できた。
		交流拠点（エーデルささゆり、ネイチャーパークかさがた等）の利用者数	4.2万人	H26	4.4万人	H29	5.8万人	4.6万人	H33	4.6万人	○		地域再生への取組に対する効果が発現され、目標が達成できた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標１	林道を活用した利用区域面積	1,840ha	H26	2,300ha	H29	2,160ha	2,630ha	R3	2320ha	△		林道整備により、森林整備が可能となった地域は増加したが、最終目標値は達成できなかった。
	指標２	林道利用区域内の間伐実施面積	0ha	H26	160ha	H29	156ha	261ha	R3	388ha	○		林道整備により、森林へのアクセス環境が改善された森林面積が増加することにより、間伐の施業実績も目標値を大幅に達成できた。

③事業の進捗状況		事業名	整備量（その他の事業では取組内容） 計画	中間年度（H29）	最終実績	事業の進捗状況に関する評価
	特別措置を適用して行う事業	市道整備事業(整備延長)	5,520	2,090	5,520	市町道整備において、目標は達成できた。
		林道整備事業(整備延長)	4,800	972	3,663	災害等により一部の工区で工事の休止が生じたことで、整備延長は到達できなかったが、林道開設を基盤に周辺地域の森林整備が活発化し、間伐施業実績は目標数値を達成することが出来た。
			10,320	3,062	9,183	
	その他の事業	収穫体験オーナー制度（神河町、多可町）	都市農村交流を促進するソフト事業の推進			鎌倉時代に造られた石垣の棚田は、日本の原風景とも呼べる景色で、日本の棚田百選にも認定されています。その美しさは西日本一といわれ、棚田オーナー制度を取り入れて都市・農村交流の拠点となっている。
		オープンガーデン（多可町）				住民が工夫や趣向を凝らした個人宅の庭や自然スペース等を公開し、観光交流協会主催のオープンガーデンバスツアー(有料)もあり、遠方からの参加者や問い合わせも多い。毎年4月末から5月にかけ、住民自慢の手作りの庭が無料で公開される。
		地域特性進展事業（多可町）				関係団体が古墳まつりやホタル観賞会など多可町の地域特性や地域資源を広く情報発信し、町の知名度及びイメージの向上、交流人口の増加に寄与する事業を行っている。
		滞在型市民農園の整備（多可町）				全国でも先駆的に滞在型市民農園「フロイデン八千代(やちよ)」などを整備。契約者は、バンガロー風のコテージと農作業を行える小さな畑で、自分の好きなときに宿泊して農作業を行うことができる。また、地元住民たちとの催し物も月2回程度に開かれるなど、農村と都市住民の交流が図られている。
		地区土地利用計画策定支援事業（西脇市）				厳しい土地利用規制により活力が失われつつある市街化調整区域の集落において、建築物の用途の制限、一定の宅地の規模の確保について建築物に関する基準を定め、集落の将来の姿を住民が考え、自然環境を保全しつつ山林や農地と調和した健全な市街地の形成及び良好な居住環境の維持・増進を図る土地利用計画を策定している。
		スイーツファクトリー（新規就農者実践農場）支援事業（西脇市）				西脇市芳田地区に整備した約15アールのイチゴ高設栽培用ハウスで新規のイチゴ農家を育成し、西脇産イチゴのブランド化や新規就農者及び定住人口の増加、さらには観光・交流の拡大による農の面からの活力とにぎわいあふれるまちづくりを進めている。
		地産地消推進事業（西脇市）				農産物直売所「北はりま旬菜館」を設置し、登録出荷者数は平成30年3月末現在で258名が旬の野菜をはじめ、四季折々の花や果物を取り扱っている。また、農産物加工グループが作った人気の巻き寿司やお弁当、惣菜、お菓子に地元特産品の播州織小物等も販売し、安心して食べられる地元産の農産物を地域の皆さんに提供している。
		夢花フォーラム（神河町）	地域住民による地域資源の再評価と町づくりの推進			神河町のボランティア団体で「川」「花」をキーワードに、メンバーの得意分野や特技を活かし、ふるさとの山や川等美しい自然を子供たちに伝えるため、花植えやゴミ拾い等の身近な事から、啓発活動や人材育成等の将来を見据えた活動まで、幅広い視点で環境保全・美化活動を展開している。
		越知川(おちがわ)名水街道づくり協議会（神河町）				レンタルサイクルをバスで20km離れた山の上にある新田ふるさと村まで運んでもらい、越知川沿いを下りながらサイクリングする越知川名水街道　自転車下りという企画を地域企業と連携し、既存の交流施設を活かしながら都市住民との交流・地域住民間の心の交流を図っている。
		多可の里・むらづくり活動事業（多可町）				むらを快適で暮らしやすく活力あるものにするため、まちの将来や集落の将来、そして次世代に引き継ぎ残せるものは何かなど、地域の資源(人・物)をみんなで見つけだし、そこに生活する人たちが自発的に、共同して、課題をみんなで出し合い、その課題解決に向けて守り育てる継続的な取組を実施している。
		多可町観光交流協会（多可町）				阪神間から1時間半の利便性を活かし、地域住民が主体となり「地学地創」「美・感・遊・創」をまちづくりのキーワードに掲げ、「こころ癒せる」多自然居住の農村と都市住民の交流拠点を目指し、多可町に関する様々な観光情報やイベント情報をご提供している。
		多可町地域協議会（多可町）				旧町の地域特性を残しながら、3つの区（中区、加美区、八千代区）が融合したまちづくりを進めていくため、旧町単位で地域協議会を設立。特に加美(かみ)地域協議会は、各集落へ訪問し地域の課題や特性を発見する地域調査「加美区みんなのまちづくり計画」を策定し、地域協議会の活動としては全国に類を見ない実績を残している。
		加美ふるさと塾（多可町）				加美(かみ)区が日本の和紙のルーツともいわれる「杉原紙(すぎはらがみ)」発祥の地であることから、和紙の原料である楮(こうぞ)を各家庭で育てる「一戸一株運動」を提唱、実践し、和紙の里づくりを目指している。
		市原（いちはら）・孝行の里づくり（多可町）				「孝子節婦」3人の内1人に選ばれた故森安小春さんの精神と徳を伝えようと、「ちょっと照れくさい孝行のメッセージ」を全国公募。国内外から2千通以上の応募があり、入選作品を集めた単行本も出版している。
		箸荷（はせがい）村芝居の復活（多可町）				全国でも珍しい現役消防団員による劇団「箸消興業」を結成し、代表的なイベントとして「箸荷秋まつり余興大会」や「箸荷紅茶祭り」などがあり、全国的に同趣旨のむらづくりを行っている地域と協同した「全国紅茶サミット」、「全国村芝居サミット」を行うなど情報を全国にも発信している。
		蛍の宿路の会（多可町）				河川への不法投棄により、蛍の個体数が減少しつつあった八千代区俵田地区において、本流野間川の河川清掃及び蛍の放流等を行い幻想的なホタルの乱舞が見られる絶好のスポットとして定着させた。毎年6月に実施する「俵田ほたる鑑賞会」は、夕方から出店やステージイベントにより、多くの来場者で賑わっている。
		地区土地利用検討協議会（西脇市）				市街化調整区域の活性化のため、地域住民によって地域の自然環境、歴史文化等を見直し、これらを保全しつつ集落の将来像を考え、グループ会議やアンケート調査を実施して、町の現状把握や課題の整理することで、既存及び新規居住住宅区域、地縁者の小規模事業所区域、既存事業所の拡張区域整理が進められている。
		北はりま定住自立圏共生ビジョン（西脇市、多可町）	北はりま定住自立圏構想			生活圏を一にする創造することを目的とする。西脇市と多可町が自治体の枠組みを越えて相互に役割分担して定住に必要な生活機能を確保し、圏域の住民がより快適に暮らすことのできる地域を「集約とネットワーク」の考え方に基づき、圏域全体の活性化を図ろうとしている。
		森林環境保全整備事業（西脇市、多可町、神河町）	森林資源を活用した林業の振興			森林の多面的機能を持続的に発揮しつつ、林業の成長産業化を実現していくためには、健全な森林を造成し、資源の循環利用を進めていく必要があり、森林施業の集約化や路網整備を通じて施業の低コスト化を図りつつ、計画的に間伐や主伐後の再造林等の森林整備を進めることが重要です。このような多様な森林に対応した整備を推進していくため、「森林整備事業」を実施している。
	計画外で独自に実施した事業					

④評価方法	最終評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行う。
⑤事後評価の公表方法	兵庫県のホームページに掲載
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生道道整備推進交付金を活用した市町道整備を実施しており、事業の整備量については、計画を達成できた。最終目標については、新型コロナウィルスの影響で観光入込客数等の目標が達成できなかったが、人の移動の制限が解除されたことにより回復・増加が見込まれる。 林道整備事業において、豪雨災害や用地交渉等により一部の工区で工事の休止が生じ、整備量に遅れが生じているものの概ね達成していることや、林道整備により、林道利用区域内の間伐を計画以上に実施できた。
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、地域再生計画地域での観光・交流人口の増加、森林整備の促進等も含め目標のほぼ達成してる。しかし、一部の事業については災害や交渉等の理由から整備に遅れも生じているため、整備による効果はあった。 引き続き本地域では、新たな地域再生計画に沿って事業を推進していく。 また、その他の事業と連携を図りながら、都市農村交流を促進するソフト事業の推進、地域住民による地域資源の再評価と町づくりの推進、北はりま定住自立圏構想の実現、森林資源を活用した林業の振興等ソフト対策も一層強化していく。